

# 姉妹・友好都市

SISTER CITIES NEWS

# ニュース

協会報

第 22 号

平成6年5月1日発行

編集・発行

茨木市国際親善都市協会



大成功をおさめた安慶市曲技団のフィナーレ

## 目次

「国際交流の集い」で多彩な交流	P 2
紅葉の内海町へ訪問団派遣	P 3
華麗に安慶市曲技団公演	P 4・P 5
45周年記念式典に姉妹・友好都市からの代表参加	P 6・P 7
スピーチ大会結果報告	P 7
国際交流員にきく、寄付紹介、国際交流の足あと	P 8

# 国際交流 の 集い

## で多彩な交流

山本会長(茨木市長)のあいさつ



市内の留学生及び市内在住外国人相互の情報交換の場として、また、留学生等が快適に生活するための一助となることを目的としたバザーを同時に開催した「国際交流の集い」が5月と12月に実施されました。2回とも衣類や石鹸、タオルなどの日用品から、テレビ、自転車など大型のものまで、多くの方々から提供していただき、約20か国からの留学生、外国人の皆さんに喜んでいただきました。

バザー後の交流会では、参加留学生各国の歌や踊り、日本の伝統文化である生花や民謡の実演、

インド留学生ラリティアさんの芸能披露



参加者全員の詩吟など、相互の文化交流を行いました。

参加した外国人の皆さんの感想は、「日本人の参加者と話ができて楽しかった」、「バザーで安く良い物が買えた」などで、「今後もこのような活動に参加したい」、「日本語や芸術、音楽などについてもっと多くの事を知りたい」など今後の活動に対する要望の声がきかれました。

この国際交流の集いは、今年も秋頃に開催する予定ですので、今回参加された方も、参加できなかった方も是非一度足をお運び下さい。





# 紅葉の内海町へ訪問団派遣

昨年11月9日～10日、10日～11日と総勢43名の市民親善訪問団が2団に別れて、豊かな自然に恵まれた姉妹都市・小豆島の内海町を訪れました。

オリーブの島・小豆島は周囲約140km、面積約170km<sup>2</sup>の温暖な気候に恵まれた平和な島で、姉妹都市提携を結んで5年になる茨木市の訪問団を温かく迎えて下さいました。訪問団は、それぞれ内海町の各所を巡り、町長さんはじめ皆さんと終始なごやかな雰囲気交流を深め、1泊2日の小さな旅を満喫しました。

日本屈指の渓谷美を誇る寒霞溪では、ロープウェイ乗り場から、お猿の歓迎を受け、眼下一面に広がる渓谷の紅葉を楽しみ、小説「二十四の瞳」の舞台となった「岬の分教場」では、団員それぞれが、廃校になった当時のままの教室でオルガンを弾いたり、椅子に腰かけたりして、昔懐かしい

情景に思いを馳せました。また、地中海を思わせるオリーブ公園を訪れ、200種類のハーブの香りに包まれて、葉をこすると指先に残る柔らかい香りに、内海町の人々の優しさを感じる思いでした。

市民親善訪問団総勢43名が揃ってオリーブ記念館——空から見ると、オリーブの実と一対の葉にも、また、両手を広げて人を迎えてくれる姿にも見える——で内海町の皆さんの出迎えを受け、「内海町への表敬訪問」を行いました。ハーブティーとハーブクッキーのおもてなしを受け、内海町の名物である「オリーブの新漬け」をいただきました。

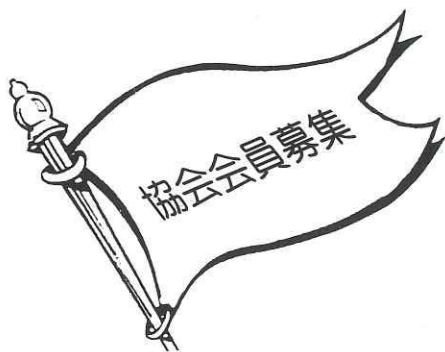
そして何より忘れてならないのがお土産!!江戸時代から伝わる塩づくりは島の産業となり、醤油、佃煮は小豆島の特産品です。「マルキン記念館」などで皆思い思いのお土産を購入し、瀬戸内海への旅を思う存分楽しみ、帰路に着きました。



八人石丁場で



岬の分教場の前で



協会設立14年目を迎え、ますますの発展を目指す本協会では、国際交流に興味のある方の入会を心からおまちしています。会員には、協会報や協会が催す交流行事のご案内をいたします。

〈年会費〉 個人会員（一般） 2,000円  
 （学生） 1,000円

団体・法人会員 一口5,000円

〈申込先〉 協会事務局（市役所3階自治振興課）  
 国際交流係 ☎22-8121内線2143

# 華麗に安慶市曲技団公演

安慶市には安徽省の文化の中心として、中国でも有名な“黄梅劇団”と“曲技団”がありますが、今回は市制施行45周年を記念して安慶市曲技団を招聘し、10月16日・17日の2日間合計4回の公演を行いました。

安慶市曲技団は1955年に設立されて以来、日本、ヨーロッパ、アジアなど世界各国で公演を行っている活発な曲技団で、なかでも、“グラスの曲芸”はフランスで開催された曲技フェスティバルでフランス共和国大統領賞を獲得しています。

一行26人は、10月11日来京し、養精中学校、西河原市民プール、文化財資料館を見学し、13日は全員で京都を観光しました。

そして、15日は終日リハーサルに費し、16日・17日の週末いよいよ公演本番を迎えました。

開幕は曲技団副団長の旗振りと青年たちの器械体操で始まり、やがて団員全員が加わって来場者

を歓迎する華やかなダンスで公演への期待はふくらみました。

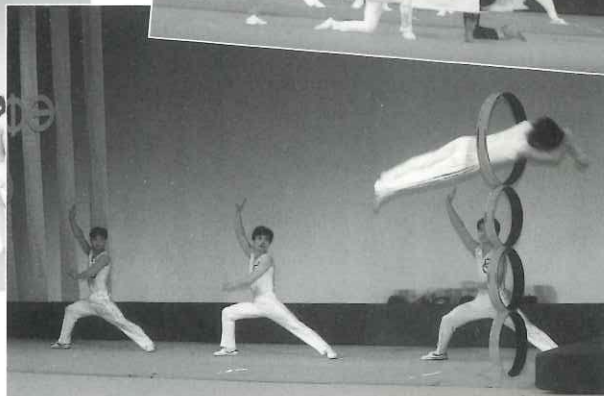
次いで、3人の若者の軽快な“輪くぐり”、9歳の少女の1～4枚の座布団を使った“一人傘回し”、11歳の少女の花瓶や卵、グラスを顔で支える“頂技”の柔軟さ・バランス感覚に驚きました。11歳の少女はもう一人おり、支え役の男性と華麗でスリリングな“お椀のせ”を披露しています。“二人傘回し”“敦煌造型”とも2人の女性で行う演技で、前者は動の快活さ、後者は静の優美さでした。

10分間の休憩の後、茨木市長と訪問団団長の挨拶があり、再び曲技に入り、軽妙な皿回しが観客をわかし、黄梅劇団員で司会を務めた張曉萍さん



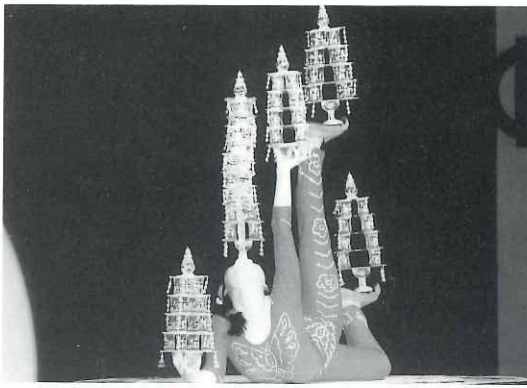
椅子のはしご

開幕のシーン



輪くぐり





が中国の民歌と「四季の歌」（日本語と中国語）で楽しませ、瓶を使ったユーモラスなトリック芸が観客の爆笑を誘いました。

次いで、来茨2回目の尹さんが登場し、大小のかめを右腕から左腕、左腕から右腕に走らせ、指先で回転したかと思うと、頭上で固定し、また、背中で受け止める年期の入った芸を披露しました。そして、2mの円卓上で卓上のアイスダンスとも言うべき“ローラースケート”——女性2人組によるスピーディーな回転演技——が終わると、いよいよ終幕に向かいます。

前述の“ガラスの曲芸”は、身体の柔軟さを生

◀ガラスの曲芸

▼かめ回し



かして、両手・両足・額・口に合計92個のグラスを支えたまま、仰向けからうつぶせになり、うつぶせから両手・両足を頭上に反らせるといいうすばらしい演技でした。

最後の“椅子のはしご”は、小型のベンチを横に、縦に次々に重ねていき、最上段の椅子の上で倒立や反転をするという危険のなかに可憐さや美しさを表しました。

そして、マジックで舞台を一層華やかにした後で、全員のお別れのフィナーレがあり、2時間半に及ぶ曲技団公演の幕がおりました。

**姉妹都市活動室**

英語力、国際感覚の向上をめざして、月2回、福祉

文化会館で、外国人ゲストを迎えて英語の研究会や講演会を開催しています。

- 〈例会〉 木曜会 第1 木曜日午前10時～
- 土曜会 第3 土曜日午後2時～
- 〈年会費〉 正会員 2,000円 (18歳以上)
- 準会員 1,000円 (中・高校生)



**青少年活動室**

英語で話ができたらなあ…、海外旅行がしたいなあ

なんて思っている中・高校生の皆さん!! “We Are Friends!” では、外国人ゲストと一緒に、英語でゲームや季節のお祭りを楽しんでいます。原則として毎月第4日曜日の午後2時から、福祉文化会館で行っていますので、友達を誘って気軽に遊びに来て下さい。会費は無料です。





市制施行45周年記念式典風景



安慶市党委員会 函書記



川西寿一内海町長



ミ市文化協会 スパージョン 会長



## 市制施行45周年記念式典に 姉妹・友好都市から

市制施行45周年を迎えた茨木市の歴史の中に姉妹・友好都市交流は大きな足跡を残してきました。まぶたを閉じれば、姉妹・友好都市の人々との素晴らしい思い出が走馬灯のようによみがえります。

昨年11月3日の茨木市制施行45周年記念式典には、未来へ共にはばたく仲間として、姉妹・友好都市から沢山の人が列席されました。

ミネアポリス市からは、本協会との交流の窓口であるミネアポリス市・茨木市文化協会のペギー・E・スパージョン会長をはじめとする市民親善訪問団一行10人が来茨し、市内公共施設、菊花展等の見学をはじめ、京都・奈良を見学、また、ホームステイを行うなど交流を深めました。

記念式典では、スパージョン会長が「姉妹都市

交流は異文化交流の橋渡しとなる最良の方法で、人々を一つにするものです」と述べ、「市民交流を支持することが、世界平和の基礎を築いています」というミネアポリス市長のメッセージを披露しました。

安慶市友好代表団も記念式典の日程に合わせて、11月1日～7日来茨されました。

メンバーは、安慶市党委員会書記汪石満氏はじめ一行5人で、記念式典のほか市内を精力的に視察されました。

学校訪問として北陵中学校を訪れ、また、市内の工場3ヵ所を訪問したり、完成した西河原市民プールのウォータースライダーに驚き、川端文学館ではしきりに揮毫に応じていました。

記念式典で汪団長は、「この記念式典の喜びを





北陵中学校訪問



京都でホームステイ家庭と



第10回英語スピーチ大会より

## スピーチ大会結果報告

平成5年11月7日、茨木市教育月間行事として恒例になりました「英語スピーチ大会」の第10回大会が開催されました。

今大会は中学生15人、高校生8人と多数の参加があり、ますますレベルアップした内容となりました。

聴衆の数も例年より多く、緊張した雰囲気の中、出場者の身ぶり、手ぶりを混じえた表現豊かなスピーチに熱心に耳をかたむけていました。

中学生の暗唱文「片腕の大リーガー」は、単語自体は比較的わかりやすかったものの、豊かな表現力が求められ、言葉一つ一つに感情のこもったスピーチが披露されました。

自由課題のスピーチとなる高校生は、海外での体験談、環境問題、性教育と性道德についてなど幅広い内容について独自の考えを発表し、英語力の高さがうかがえました。

入賞者の皆さんは次のとおりです。

〔中学生の部〕 〈1位〉上田理恵(西陵中)  
 〈2位〉森美紀子(大阪教育大学付属天王寺中)  
 〈3位〉高森理絵(西中)  
 〈ジャパンタイムズ賞〉藤野恵(北中)

〔高校生の部〕 〈1位〉松本千愛(高槻北高)  
 〈2位〉宮階郁子(大谷高) 〈3位〉中尾文子(金光第一高) 〈ジャパンタイムズ賞〉川崎眞理(福井高)

## の代表参加

茨木市民とともに分かちあうことができるのは大変うれしく、光栄なことです」と述べられ、最後に茨木市歌の一節を引用して、「45周年を新たな出発点として、更に輝かしい、すばらしい未来を迎えて下さい」と祝辞を述べられました。

代表団は、東京見学の後、成田空港から帰国されました。

国内姉妹都市の内海町からは、川西寿一町長と森口達夫議長が11月2日来茨され、ミネアポリス市訪問団、安慶市代表団との合同歓迎会などに出席し、親しく歓談するなど交流をはかり、記念式典では、「こども交歓事業をはじめ、姉妹都市の絆が次第に広く、深く、強くなってきたことは、まことに嬉しい限りであり、日頃の温かいご配慮に改めてお礼申し上げます」と祝辞を述べられました。

# 国際交流員

## セオールドーレンキャンプ氏 にきく

ミネアポリス市の穴場情報を紹介します。まず、若者のデートスポットとしてはファイン・ライン・ナイトクラブで、ジャズ音楽を聞きながらお酒を飲み、その後でカフェ・ソロ（午前3時まで営業）に行き絶品のパスタを食べます。その他、ボヘミアン・スタイル（フランス調）のローリング・カフェには世界各国の人々が集まってきましたし、有名なロック歌手の元プリンスが経営するグラム・スラムもダウンタウンにあります。ミネソタ大学キャンパス内のグランマズは学生に人気があります。

ミネアポリス市を訪れるなら、カーフン湖、アイルズ湖などの湖が一番美しい5月がベストです。また、カーフン湖の近くのアップタウンはニコレットモールとは一味違ったショッピング街です。まだまだこの他に素敵な場所が沢山あります。皆さん！ぜひ私の街にいらして下さい。半年間どうもお世話になりました。私は4月からも茨木市の周辺に滞在します。これからは街で気軽に「テッド」と声をかけて下さい。

ミネアポリス市を訪れるなら、カーフン湖、ア

イルズ湖などの湖が一番美しい5月がベストです。また、カーフン湖の近くのアップタウンはニコレットモールとは一味違ったショッピング街です。

まだまだこの他に素敵な場所が沢山あります。皆さん！ぜひ私の街にいらして下さい。

半年間どうもお世話になりました。私は4月からも茨木市の周辺に滞在します。これからは街で気軽に「テッド」と声をかけて下さい。



### 寄付

本市の国際交流事業の推進のためにと次の方から温かいご寄付をいただきました。ご厚意に心からお礼申し上げます。（10月～3月、敬称略）

〈市へ〉 社団法人茨木カンツリー倶楽部 (3,000万円)

## 茨木市における国際交流の足あと

— 第20号以降の経過 —

- (1993)
- 5.5 「茨木市民親善訪中団」一行27人安慶市訪問
- 5 「'93小豆島オリーブマラソン」に市民46人参加
- 6 「安慶市都市建設視察団」一行5人来茨
- 7 第10回ゴルフコンペ開催
- 7 ミネソタ州日本語村カウンセラー鈴木稚英さん、山下智子さん訪ミ
- 7 「茨木市民親善訪問団」一行26人ミネアポリス市訪問
- 7 茨木市水泳連盟一行128人内海町で「第9回臨海水泳学校」開催
- 7 ミネアポリス音楽グループ「フィフス・アベニュー」来茨
- 8 「少年・少女洋上セミナー」で茨木市と内海町の小・中学生など300人3泊4日のクルージングで交流
- 10 ミネアポリス市からドーレンキャンプ氏国際交流員として来茨
- 10 茨木市消防本部小山氏、同消防署山城氏海外行政研修のため訪ミ
- 10 「ミネアポリス市民親善訪問団」一行10人来茨
- 11 「安慶市友好代表団」一行5人来茨
- 11 第10回英語スピーチ大会開催
- 11 「内海町への市民親善訪問団」第1団22人、第2団21人内海町訪問



海外研修の小山氏、山城氏

